

①

初回の令和元年度は、「視点の邂逅」をテーマに、6人のアーティストの展示を行いました。素材のイメージを変える鉄彫刻(①)、素材の匂いとイメージが交錯する立体(②)、現代社会や日常のリアルを映し出す映像や写真(③)、日用品を日用のイメージから分離させるインスタレーション(展示空間を含めて作品とする手法)(④)など、多彩な作品を展示しました。

昨年度の展示 ——視点の邂逅——



④



③



②

本年度の展示 ——維持される気配——

本年度はテーマをさらに絞り、「気配」に焦点を当てて、アーティストを選出しました。

今回テーマにした「維持される気配」は、私たちが無意識に行っている呼吸や、衣服を着ること、モノを消費すること、自然や他の誰かと関わりをもつことなどを表現しました。それは、ささやかな生命活動を繰り返し考え直し、重ね、交えることで、確かな手応えを感じ取るうとする試みでした。

ビニール袋で呼吸を見えるようにしていくパフォーマンズ作品(⑤)や、重力や天候を利用した彫刻や光と影を取り込んだインスタレーション(⑥)、使い捨てられたマスクや脱ぎ捨てられた衣服などの人間の一部分であったものをモチーフとした平面(⑦)などを展示しました。

それらの作品は今の時代の中で、より一層生々しい現実を投影したものとなり、改めて私たちが生きる今の世界を理解し実感できる展示となりました。



⑦



⑥



⑤

特集1 高島から始める現代アート

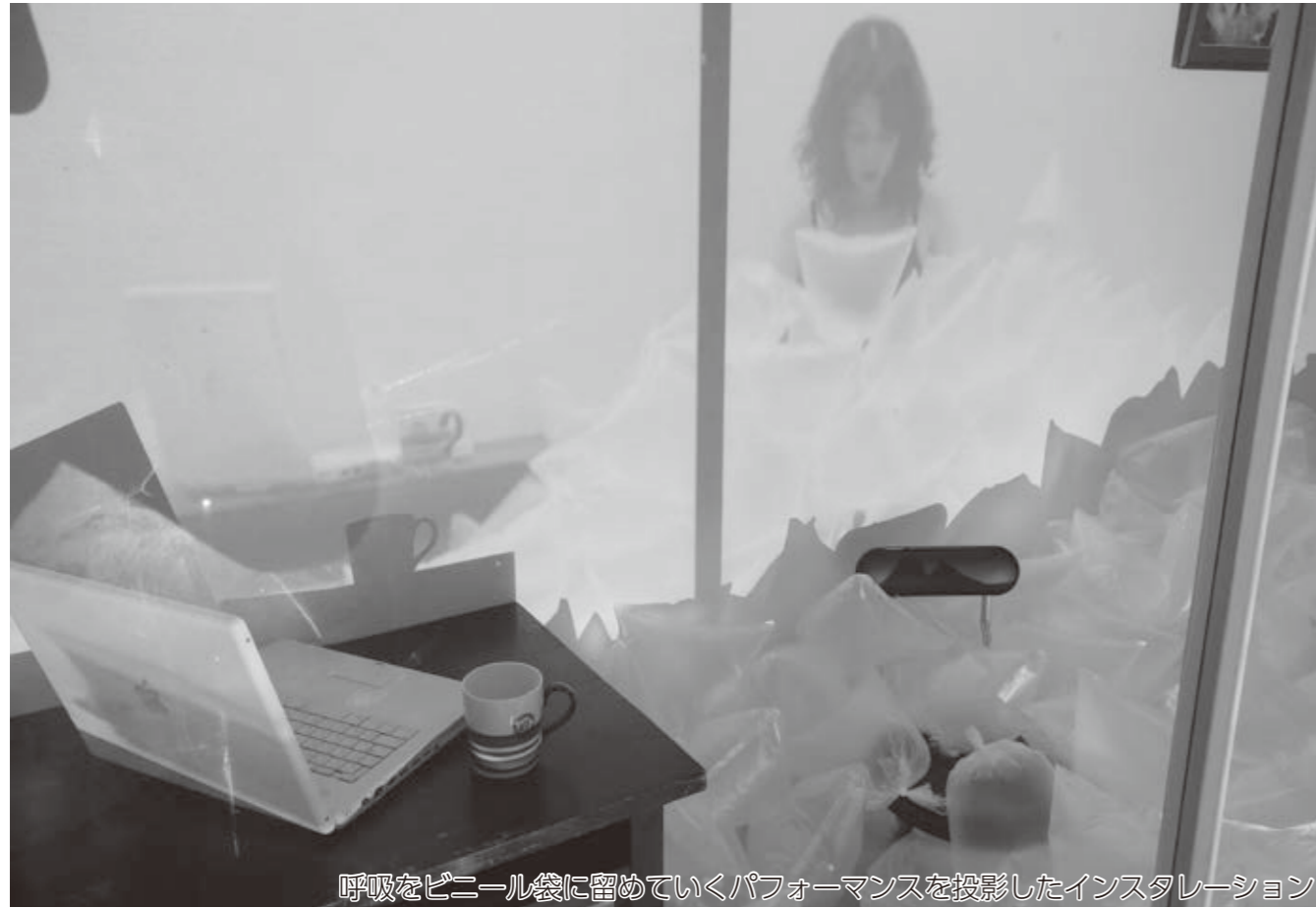
藤樹の里文化芸術会館 ☎ (32) 2461

藤樹の里文化芸術会館では、滋賀県にゆかりのある作家を紹介する「地元現代美術作家展 ニュー・ロケーション」という展示事業に取り組んでいます。

この企画は、県内で活動するアーティストに身近な土地で展示ができる場を提供するとともに、普段あまり馴染みのない現代アートを気軽に鑑賞できる機会を創出することを目的に、互いに新たな発見やコミュニティが形成されることを目指しています。

最近では、現代アートに触れる機会も増えてきましたが、「現代アートはよくわからない」と思っている方も多くありません。そこで今回は、藤樹の里文化芸術会館での展示事業を紹介するとともに、そもそも現代アートってなんだろうっていうところから、鑑賞の手引きの一つとなるようご案内します。





呼吸をビニール袋に留めていくパフォーマンスを投影したインスタレーション



蓄積された記憶の風景を描いた油彩

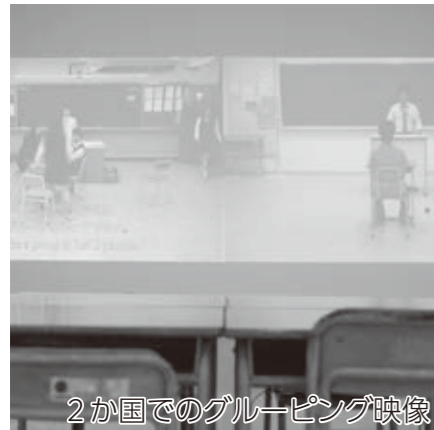
現代アートって なんだろう？

アートは絵画や彫刻だけではなく、美しくないものでもありません。視覚のみではなく、五感を通して知覚に訴えかける作品も数多く制作されています。

既製品を置いただけの作品や、落書きのような作品、音や匂い、自然現象をそのまま見せる作品など、さまざまな形があります。それらには、制作当時の社会情勢や哲学的な思想が含まれることもあります。

なぜなら、現代アートは新しい価値観や、物事の違った捉え方を生み出すものとしての役割をもっているからです。常に変化していく世界や人間についての理解を深め、私たちが私たちがらしく生きていくための、一つの方法のようなものでもあります。

さまざまな感性や価値観を育み、確立していくことは、私たちの人生をより豊かにすることにつながっていきます。



2か国でのグループピング映像

作品を 理解するには？

「現代アートはよくわからない」とされる理由は、作品が制作された時代背景や思想概念（コンセプト）を理解していることが前提とされているからです。

鑑賞する際は、作品の背景を読み解き、考え、発見をすることが大切です。作品の背景については、会場の資料や本、インターネットで調べてみたり、アーティスト本人に聞いてみたり、自由に想像したりするのも良いでしょう。その先は明確な答えがあるわけではありません。好きなように見て、何をどう感じ取っても良いのです。色が好き、形が嫌い、心地よい、



山中の廃材を描いた平面

懐かしい、気持ち悪いなど、そのさまざまな感想から、さらに一歩踏み込み、なぜそう感じたのかと、自分の視点をもって突き詰めてみてください。

自分なりに作品を理解することができた時、それはきっと皆さんの中にある記憶や経験、悩みや疑問に結び付き、スッキリしたり、ビックリしたり、嬉しくなったり、悲しくなったり、モヤモヤしたり、新たな感動を得られるはずですよ。

今後も、藤樹の里文化芸術会館では、現代アート展だけでなく、音楽や演劇などの文化事業に取り組んでいきます。鑑賞事業から体験型、参画型までさまざまです。ぜひ、皆さんも芸術文化に触れてみてはいかがでしょうか。



子どもたちの日常を映した写真